

e 学校だより



□□□□

東

雲

□□□□

秦野市立東小学校

令和2年12月20日



創立147周年 東小学校開校記念日 12月20日



12月20日は東小学校の誕生日、開校記念日です。今年で147周年を迎える伝統ある東小学校の歴史については、職員室前の廊下にも掲示していますが、学校の生い立ちについて簡単にご紹介します。尚、内容については、創立百周年記念誌「この遙かなる道」を参考にまとめました。（この内容については、昨年度の学校だよりNo.17でご紹介したものと同じです。）

明治3年	明治6年	明治12年	明治25年	大正11年	大正12年	昭和16年	昭和22年	昭和30年	昭和32年	昭和50年	昭和55年	平成4年	平成8年	令和2年	*未来に 向けます ます 発展
郷学校	修身館	田原学校	田原小学校 東雲小学校 開進小学校	尋常高等東秦野小学校	東秦野尋常高等学校	東秦野国民学校	東秦野村立東秦野小学校	秦野市立東小学校	給食開始	北校舎完成・創立百周年記念	体育館完成	南校舎完成	プール完成	創立147周年	

明治3年10月の明治政府の布達（小学校ヲ設ル事）を受けて、東田原村「込山安兵衛」宅を借り受け、「郷学校」を設立しました。村の子弟を集め、西田原村の「野田弥一右衛門」を師とし、勉強を教えました。明治6年6月には本校を「曾屋村龍門寺」に、支校を「東田原村金剛寺」に設置し、「郷学校」の生徒を合わせ、名前を「修身館」と改めました。この年が東小学校の始まりと考えられます。

明治12年9月29日の教育令公布により、東田原村・西田原村・羽根村・蓑毛村・小蓑毛村・寺山村の6ヶ村を1学区とし、東田原金剛寺内に本校を置き名前を「田原学校」と改めます。明治19年4月9日から、明治25年までは尋常小学校として教育が行われました。その間、明治22年の町村施行令により、西田原村・東田原村・蓑毛村・小蓑毛村・寺山村・落合村・名古木村の7ヶ村が合併して「東秦野村」となっています。

明治23年10月6日の小学校令の改正により、明治25年に東秦野村を3学区としました。東田原・西田原に設置された尋常学校は、明治25年10月30日の、新築落成式をもって開校式を行い「田原小学校」となりました。尋常小学校として発足した田原小学校が、尋常高等小学校になったのがいつかは沿革誌には記されていませんが、明治29年には尋常高等小学校になっていたことが修業証書からわかります。

また、明治25年4月15日には、名古屋・落合の2部落に「東秦野村立尋常開進小学校」が開校しました。児童数が少なかったため、複式学級で行われました。尋常小学校であったため、高等科へ進学する者は、村内の田原小、東雲小あるいは秦野町の曾屋小の高等科を選択することになっていましたが、多くの子弟は「曾屋小」の高等科へ進学したようです。東小のシンボルであった「せんだん」の木は、開進小学校開校時に落合の川の合流点から運んだもので、3校の統一校舎完成後、現在の小学校に再び移植されています。(PTA広報誌の名前にもなっていますが、現在は存在しません)

明治25年6月5日、東秦野村寺山字久保に尋常単級小学校として開校したのが「東雲小学校」です。(学校だよりは、「東雲」を使用しています) この3校分立時代がしばらく続きます。

時代が過ぎ、大正11年12月20日に従来の3学区は廃止され、一村一校となりました。つまり、尋常高等田原小学校、尋常高等東雲小学校、尋常開進小学校の3校を統一し、「尋常高等東秦野小学校」となりました。しかし学校は統一したものの、単に名称の上だけで3校の場所は従来通りのままでした。(大正11年度の卒業式は、統一校舎予定地で行う) この3校が統一された12月20日が、東小学校の開校記念日となったと考えられます。

大正12年4月1日には、神奈川県を通達により「東秦野尋常高等小学校」と改称されました。しかし、新校舎工事着手の前日に関東大震災が起き、校舎完成まで時間を要することとなります。新校舎が完成したのは、大正13年11月5日でした。現在の校章は、東雲小学校の校章を原型として作られ、「東」つまり旭日を表しています。

昭和16年4月1日には、「東秦野村国民学校」と改称されます。また、終戦後の昭和22年4月1日には、「東秦野村立東秦野小学校」となりました。

昭和30年1月1日、秦野町・南秦野町・東秦野村・北秦野村の二町二村の合併により、現在の「秦野市立東小学校」と改称されました。この年の3月3日には校歌が制定されます。その後は、発展を続け、昭和32年11月に給食室が完成、同年12月2日より給食が始まりました。当時の1か月の給食費は月280円、1回の食費は17円だったそうです。昭和50年4月1日に現在の北校舎が完成、この年、創立百周年記念式典を盛大に行っています。

その後、体育館、南校舎、プールが次々と完成し、現在の小学校になっています。

移植されたセندانの木



清水ヶ丘の統一校舎



当時の校舎と給食の様子



創立百周年の時の学校の様子



多くの人々に支えられ、守られながら発展し続けている東小学校です。これからも東小の良き伝統を守り、次の世代に引き継いでいきたいと思えます。今年度3年生の子どもたちが6年生になる令和5(2023)年に創立150周年を迎えます。その大きな節目の年を目指しながら教育活動を進めてまいります。